

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671400150
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム ひまわり苑
訪問調査日	平成20年6月18日
評価確定日	平成20年7月18日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4671400150		
法人名	医療法人 浩愛会		
事業所名	グループホーム ひまわり苑		
所在地 (電話番号)	垂水市錦江町1番地240		(電話) 0994-32-6161
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成20年6月18日		

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年3月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14.5人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃	24,000・27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有() 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 200 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	垂水中央病院、相良整形外科、川畑歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、垂水市中心部の海沿いに建てられ、雄大な桜島と錦江湾を眺めることができる。職員には有資格者が多く、看護・介護・保育といったバラエティにとんだ多職種でのケア体制となっている。職員の定着率が高いことで、入居者にとっては馴染みの関係が持続している。敷地内の菜園でとれた野菜の料理を囲んで、なごやかに食事している姿が見られ、入居者と職員との良好な関係が伺える。母体病院による訪問診療や緊急時の対応等、24時間のバックアップ体制が整っていることは、入居者のみならず、ご家族にとっても大きな安心材料となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	町内会へ加入し、近隣での散歩では気軽に挨拶を交わしている。運営推進会議メンバーである民生委員を通じて、地域との交流や防火・防災訓練への参加協力を働きかけている。市の担当者とは日頃から行き来する関係となり、近隣のグループホームとも、入居者および職員が相互訪問する機会が持たれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価や外部評価をサービスの質向上の機会と捉え、職員全員が全項目の自己評価に取り組み、それぞれの振り返りが行われている。さらに、ホームとして一本化し、現在の課題を職員が共有している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、入居者の現状や行事内容の報告の他、外部評価や行政の指導・監査の内容も取り上げられ、参加メンバーからの意見・助言をもらい、ケア内容の充実に繋げている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から意見や相談が出やすい関係となるように、ご家族とのコミュニケーションを重視した対応を行っている。年2回家族会を実施しており、当日に意見を出しやすくするため、事前に議題を提示するなどの工夫がなされている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会しており、日頃から散歩や買い物の際に地域へ出向いている。また、職場体験実習の受け入れを行ったり、ホーム内へ気軽に立ち寄れる体制がとられている。運営推進会議メンバーである民生委員を通じて、地域との交流機会についての働きかけも行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で理念について話し合い、事業所独自の理念をつくりあげている。さらに、地域密着型サービスとして位置付けられたことを受けて、入居者の地域での暮らしを支援することを意識した内容が盛り込まれている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕のミーティングの際に、理念に沿ったケアが行われたかを振り返ったり、実際のケアの場面においても、職員同士で気づきのあった場合は、その都度、声をかけ合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、日頃から散歩や買い物の際に地域へ出向いている。また、職場体験実習の受け入れを行ったり、ホーム内へ気軽に立ち寄れる体制がとられている。運営推進会議メンバーである民生委員を通じて、地域との交流機会についての働きかけも行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価をサービスの質向上の機会と捉え、職員全員が全項目の自己評価に取り組み、それぞれの振り返りが行われている。さらに、ホームとして一本化し、現在の課題を職員が共有している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の現状や行事内容の報告の他、外部評価や行政の指導・監査の内容も取り上げられ、参加メンバーからの意見・助言をもらい、ケア内容の充実に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口へ出向いて近況報告を行ったり、市担当者が運営推進会議以外にも立ち寄ることもあり、密接な関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりについては、ご家族の面会時には必ず時間をかけて伝えており、定期的に「ホームたより」に近況を添えて郵送している。金銭管理については、出納帳に領収書を添付してご家族の確認をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見や相談が出やすい関係となるように、ご家族とのコミュニケーションを重視した対応を行っている。年2回家族会を実施しており、当日に意見を出しやすくするため、事前に議題を提示するなどの工夫がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の離職・異動が少なく、馴染みの職員によるケアが実施されている。やむを得ず職員の異動がある際も、十分に引き継ぎ期間を設け、入居者への不安が起らないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部研修会へ積極的に参加しており、参加できなかった職員に対しては報告会が行われている。また、働きながら国家資格が取得できるように、独自に勉強会を実施している。管理者は、職員の段階に応じて受講機会を確保するように努めているが、具体的計画は今のところ策定していない。	○	さらなるサービスの質向上のためにも、職員の立場・経験・習熟度等を勘案した研修計画を立案し、段階に応じた人材育成に努めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム連絡協議会に加入しており、研修会への参加やネットワークづくりに取り組んでいる。近隣のグループホームとも、相互訪問や意見交換の機会を通じて、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には事前面談を行い、必ずホームを見学したり体験利用する機会をつくり雰囲気を感じてもらっている。入居後も安心して暮らせるように、ご家族や関係者には、面会の機会をなるべく多く持っていただくように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が、パッチワーク等の共同作業を通して自然と話したり触れ合ったりする中で、喜怒哀楽を互いに享受している。職員は、入居者から学ぶ姿勢を持ち、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や思いについては、散歩の際やソファでくつろいでいる場面等で話される言葉やしぐさを記録し、職員全員で共有する中で入居者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	独自に考案したアセスメント表により、入居者およびご家族からの情報収集を行い、サービス担当者会議において出席者から意見をもらうなどして、介護計画が立案されている。	○	地域の中でその人らしく暮らせる方法を盛り込んだ、入居者参加型の介護計画立案が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいてケア内容を日々チェックし、3ヶ月毎のモニタリングを行い、入居者の変化を把握しながら介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院による、医療面での支援体制が充実している。また、外出や通院といった場面においても、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族が望むかかりつけ医に、定期的な受診しながら連携をとっている。必要な場合は、専門科の受診や緊急時における対応も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者およびご家族が望む場合には、重度化した場合や終末期においても、ホームで十分なケアできるように、看護師の配置や協力医療機関からの支援体制を整えている。	○	重度化や終末期の在り方について、入居者およびご家族の意向をできるだけ早い段階から確認して記録に残すことで、関係者間で方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切にするため、露骨な声かけ等は控え、さりげないケアに努めている。日常業務で綴られる記録等の個人情報については、丁寧かつ厳重に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日のスケジュールはあるものの、当日の入居者の体調や意向を踏まえながら、起床、就寝、食事、入浴といった活動には柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みのメニューだけでなく、ホームで栽培・収穫した食材を、入居者と職員と一緒に調理して同じテーブルで食べることで、話題が広がり楽しい食卓となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制となっており、希望や状況に合わせて時間帯や回数を変更している。入浴拒否のある方に対しても、無理強いせずに自然と入れるように支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、入居者のこれまでの経験や習慣を活かした役割や楽しみごとの場面づくりに取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣への散歩や買い物が行われており、ホームに閉じこもらない生活を送ることができる。さらに、季節ごとの催し物や物産館への買い物など、外出の機会を多く持てるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの意義について、十分に理解している。日常的に鍵をかけない環境づくりがなされており、入居者ごとにその日の状態を理解しながら、安心して生活できることを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立合いのもとに夜間想定訓練等を実施し、誘導方法・避難器具設備点検・使用方法について訓練指導が行われている。近隣住民の方々には、災害時の協力が得られるように、運営推進会議等を利用して呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮しながら、栄養士の助言を受けて献立を作成している。一日の食事・水分摂取量を記録し、十分に確保できるように支援している。体調不良の入居者には、代替食を用意するなどの配慮がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は木を豊富に使った落ち着いた造りで、リビングや和室では入居者同士が楽しい雰囲気でも過ごしている。広々としたウッドデッキでは、潮風に吹かれながら、菜園に植えられた野菜の成長を眺めることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や、慣れ親しんだ小物類が持ちこまれている。本人こだわりの作品や手作りカレンダー等が飾られており、それぞれの個性を感じさせる居室づくりが行われている。		